

オーナーblog 第27話 「人の心は仏にも鬼にもなる」 (2026.6.22.)

ウクライナやガザ地区の人々の心は、“鬼”になっているかも知れない。精神のレベルが下がれば、やられたらやり返す。相手がやらないならしない。調停後のガザ地区には空爆があった。国境はナイーブである。

宗教や文化が違う場合、過去の残忍な歴史があれば、なおさら緩衝地帯が必要になる。ロシアと中国におけるモンゴルや、中国とインドにおけるネパールがその役割を担っている。ネパールでは、“政治”においてインドと中国の代理勢力があるのも現実である。

一般家庭においても“塙”の存在があり、塙際は緩衝地帯の役割になっている。うまくしているところは、微妙に距離を取り、敵意が無いことを示す綺麗なものを相手に見せる文化があった。それが生垣である。(汚いものは敵意に受け取られることもある)

1991年、インドパキスタン中国の国境のカシミールに行ったとき、人心は荒れていた。日に2万人来ていたというスキー場は、100人にも満たない状況になっていた。

カシミールの旅行業者は、デリーでだましてまで観光地に連れてきて、威圧的に金を使わせる行為をしていた。しかし、彼らはそこまでの悪人と思えなかった。

本当に人を処刑する軍人には怯えていた。戦争は、市民も鬼に変えることを知った。

日本でも第二次世界大戦で軍人をした一般人が、武器をもって人殺をしている。やらなければやられる。誰にやられるか？ 上官に後ろから撃たれるのである。

平和には、不断の努力が必要なのである。(国家も近隣も同様に)